

令和4年度第2回3市ごみ減量推進市民会議次第

日 時 令和4年11月24日（木） 午後2時から

場 所 日野市立石田環境プラザ2階集会室

次 第

1 小委員会からの中間報告

(1) 情報発信・環境学習グループ

(2) 減量グループ

2 その他

3 閉会

3市ごみ減量推進市民会議
情報発信・環境学習グループ（情報グループ）中間報告

1. 情報グループ会議の開催状況

- (1) 全体会議後の情報グループ会議（7月26日）
 - ① グループリーダー（ハッ藤委員）とサブリーダー（伊藤委員・橋本委員）を選出した。
 - ② 前期の市民会議が提案した「小学生向け見学者用の副読本の編纂」の実現に向け、副読本の内容等を優先して検討することを決めた。
 - ③ 行政委員からも、浅川清流環境組合で予算措置することを考えているので、情報グループで内容を検討して欲しい旨の発言があった。
 - ④ 事務局に、次の会議までに3市の小学4年生用「ごみの処理と再利用の副読本」及び多摩地域の広域廃棄物処理施設の児童向け「見学の手引き」等の収集を依頼した。
- (2) 第1回情報グループ会議（8月24日）
 - ① 事務局より、3市の小学4年生用副読本及び多摩地域8施設の見学の手引きの提供があった。
 - ② 新たに作成する「見学の手引き」（仮称）のイメージ合わせを行った。
 - ③ 組合への児童見学状況等の質問に対する回答の説明があった。
 - ④ 作成費用は、組合が全額を来年度予算に計上することを確認した。
- (3) 第2回情報グループ会議（10月26日）
 - ① 行政委員より、「見学者用副読本 予算積算項目等について」の説明があった。（副読本の概要とスケジュール案）
 - ② 説明資料の概要に記載されているページ割及び内容は、変更が可能であることを確認した。
 - ③ リーダー作成の「小学生向け『見学の手引き』（仮称）の作成について」及び「小学生向け『見学の手引き』の内容案（たたき台）」について意見交換した。
 - ④ 委員から出た意見を参考に原案を一部修正のうえ、11月の全体会議で報告し、各委員の意見を聴取することになった。

2. 小学生向け「見学の手引き」（仮称）の作成について

別紙資料1の通り。

全体会で意見聴取のうえ骨格を固める。

以 上

令和4年11月24日

浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設 小学生向け「見学の手引き」(仮称)の作成について

情報発信・環境学習グループ

1. 「見学の手引き」の作成理由

- (1) 小学4年生は、総合的な学習として「ごみの処理と再利用」の授業を10数時間受けており、この授業の一環として、浅川清流環境組合可燃ごみ処理施設(以下「可燃ごみ処理施設という。）」を見学している。
- (2) 最近の2年間は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、市によって見学校数にバラツキがあるが、コロナが収束すれば、3市の大半の小学校が可燃ごみ処理施設を見学することが予想される。
- (3) 浅川清流環境組合(以下「組合」という)作成の見学児童用のパンフレット(A4版4ページ)は、可燃ごみの処理工程図が中心で、3市共同処理の目的、焼却後の灰の処理、発電の状況、公害対策等の幅広い説明がなく、学習の補助教材としては不十分と思われる。
- (4) 今後、見学児童数の増加も予想されるので、可燃ごみ処理施設の説明の他に共同処理の目的、3市のごみ・資源物処理の流れ、3市共通のごみ問題(環境問題)等も織り込み、補助教材としても利用できる「見学の手引き」(仮称)を作成し、見学児童に配布したい。
- (5) 市民会議は、第2期の提案書で「見学者用の副読本の編纂」を3市に提案しており、本件はこの提案を具体化するものである。

2. 「見学の手引き」の概要

- (1) 編集・発行
「見学の手引き」の編集・発行は、組合とする。
但し、内容については、3市及び市民会議の意見を斟酌する。
- (2) 仕様(予算積算項目)
 - ・ ページ数 12ページ(A3用紙2枚折り3枚)
 - ・ 紙質 再生コート紙
 - ・ 印刷色 フルカラー
 - ・ 印刷部数 当初1万部 2~3年分確保 以後数年毎に改訂
<参考> 3市の4年児童数推定+先生=約3,600人
- (3) 配布対象
 - ・ 3市の小学生の団体見学には全員に配布する。(引率の先生含む)
 - (注) 既存の4ページのパンフレットは配布しない。

- ・ 3市の見学校以外から配布希望があった場合にも対応する。
- ・ 個人の見学者は、希望者に配布する。

(4) 予算手当て

組合は、前記仕様で積算し令和5年度予算に計上する。

(5) 作成スケジュール（案）

- ・ 令和4年10月～12月 作成目的の設定、基本コンセプトの策定
- ・ 令和5年1月～3月 掲載内容、ページ割の検討、仕様書作成
- ・ 令和5年4月～9月 印刷業者選定、編集・校正作業
- ・ 令和5年10月 印刷
- ・ 令和5年11月 納品

(6) 配布開始

令和6年1月より（小学4年生の団体見学には令和6年度より配布）

3. 「見学の手引き」のコンセプト（案）

- (1) 「見学の手引き」は、施設見学時の説明資料にするとともに、児童が持ち帰って補助教材としても利用できるような内容にする。
- (2) 可燃ごみ処理施設の説明以外に、3市の説明、共同処理の目的、ごみ・資源物処理の流れ等を記載し、児童が住所地以外の2市にも興味・親近感が沸くような内容にする。
- (3) ごみ処理が多数の人によって行われ、施設周辺の人たちの理解で成り立っていることを理解し、児童が関係者への感謝と自分たちの責任を認識できるような内容にする。
- (4) 一方的な説明でなく、児童が疑問に思うことなどにも答える児童目線の分かり易い内容にする。
- (5) 各市の副読本に記載のない、世界的な課題である「食品ロス問題」「プラスチックごみ問題」を採り上げ、自分たちに何ができるかを考える動機付けにする。この問題はSDGsにも密接に関係していることも説明する。（SDGsは小学校でも積極的に教えている。）
- (6) ごみ・資源物量等の計数は、挟み込み方式（A4版1枚程度）とする。但し、「見学の手引き」にQRコードを表示し、学校のパソコン（1人1台配布）で見る方法も検討する。

4. 「見学の手引き」の内容（案）

別紙資料2 「見学の手引き」の内容（案）の通り。

3市の副読本の内容となるべくダブらないようにする。

5. 「見学の手引き」の名称の検討について

親しみのある良い名称を考えたい。

(「見学の手引き」全体のイメージを表す副題も)

<例>

- ・浅川清流環境組合 可燃ごみ処理施設 見学の手引き (しおり)
- ・可燃ごみ処理施設 社会科見学のしおり
- ・可燃ごみ処理施設へようこそ！ 見学ガイドブック

-
- ・ごみゼロ社会をめざそう！ みんなの力で
 - ・ごみをへらそう！ みんなのために 未来のために
 - ・1人ひとりの行動が未来を変える
 - ・みんなの力で 持続可能な未来を！

以 上

<参考> 小学4年生の団体見学の状況 (見学期間 毎年6月～12月)

	日野市 (全17校)	国分寺市 (全10校)	小金井市 (全9校)
令和3年度	3校 255人	10校 943人	1校 104人
令和4年度	2校 210人	10校 950人	2校 294人

(注) 国分寺市は、教育委員会が中心になってスケジュール調整し
全校見学を行っている。他市は、各校のオプションで実施。

<参考> 3市一般廃棄物処理基本計画の目指す姿

- ・日野市 　　ごみゼロ社会を目指して
- ・国分寺市 　清潔で環境に優しい循環型都市
- ・小金井市 　循環型都市「ごみゼロタウン小金井」を目指して

○第1期市民会議提案 　焼却ごみゼロを目指す (30年後)

小学生向け「見学の手引き」（仮称）の内容（案）

情報発信・環境学習グループ

ページ	項目	内容	ページ数	備考
表紙	見学の手引き（仮称）	・施設写真 ・組合マーク ・3市の略図 ・施設名	1P	略図：3市をイラストで表示
1	はじめに	・共同処理の目的、3市連携、手引きの活用、児童への期待	0.5P	共同処理の付随的な効果も
	目次	・目次 ・統一した用語の説明	0.5P	
2	3市の紹介	・3市の紹介 日野市、国分寺市、小金井市の特徴 ・3市の地図 市役所、ごみ処理関連施設	1P	市毎に ・人口 ・世帯数 ・市の歴史 ・市の目指す姿 ・ゆるキャラ 等
3~4 (見開き)	3市のごみ処理の流れ	・日野市 図で説明 収集車・指定収集袋の写真も ・国分寺市 // ・小金井市 //	2P	家庭から出たごみ・資源物の処理の流れ (市によって処理に違いあることを理解) コラム：ごみ減量・分別の徹底の重要性
5~6 (見開き)	可燃ごみ処理施設の紹介	・施設の役割 ・焼却処理の工程図と説明 ・処理能力 ・発電状況 ・環境/防災対策 ・異物混入の状況 ・施設周辺への感謝 ・多い質問とその答え	3P	分かり易い図に Q&A形式も採用 可燃ごみ処理施設はこのページで良いか？
7				
8	二ツ塚最終処分場の紹介	・エコセメント工場 ・埋立て地の状況 ・日の出町への感謝	1P	なぜ広域最終処分場ができたか なぜエコセメント工場ができたか
9	—SDGsを考える— 食品ロスを減らそう	・食品ロス問題の説明 ・私たちにできること ・SDGsとの関係	1P	世界的な課題（3市共通の課題）を説明して 児童が考える動機付けにしたい。
10	—SDGsを考える— プラスチックごみを減らそう	・プラスチックごみ問題の説明 ・私たちにできること ・SDGsとの関係	1P	SDGsは小学校でも勉強している。日野市はSDGsの先進都市に認定
裏表紙	リサイクルで何に生まれ変わるか	・資源ごみ→リサイクル商品を図で紹介	0.5P	分別の重要性、資源循環、リサイクル品の利用
	発行者名等	・施設案内図 ・発行者名	0.5P	

減量グループ小委員会 開催実績

2022 年 8 月 30 日 第 1 回 国分寺市ひかりプラザ

2022 年 10 月 24 日 第 2 回 小金井市野川クリーンセンター

参加者

日野市 小野寺委員、高松委員 (行政) 高尾課長 山口主任
国分寺市 石垣委員、佐藤委員 (行政) 栗原課長 永沢係長
小金井市 續木委員、林委員 (行政) 今井課長 府川係長

以下の項目について検討した。

1. 生ごみ減量・分別収集・資源化
2. プラごみ減量・資源化
3. 紙ごみ減量・資源化

第 1 回会議で各委員によって洗い出された減量・資源化のための方策は、添付 1 の通り。

第 2 回会議では、第 1 回会議で洗い出された項目の中から、具体的なアクションにつなげる項目を議論した。その結果を、添付 2 (議事メモ) に示す。

添付 2 の中の今後進めることとした具体的な内容は、以下の通り。

- 1 生ごみ減量・分別収集・資源化に係る検討
 - ・「消費行動マナー」 三市共同のポスター作るか
 - ・食品ロスの量、処理費用を含めて周知するポスター作るか
 - ・「食品ロス削減推進協力店」認定範囲の拡大
 - ・店舗を指定しない「食べ残しゼロ・お持ち帰りお薦め」POP 配布
- 2 プラスチックごみの減量・資源化に係る検討
 - ・ 3 市でドラッグストア他、未アプローチ店舗への店頭回収の働きかけ
- 3 紙ごみの減量・資源化について
 - ・ 30 年後の焼却炉の運転停止を踏まえ、焼却ゼロを目指す 3 市市民会議としては何らかの紙おむつ処理の検討を開始する必要があると考える。
 - ・ 将来の方向性を見定めるため、国・都の動向等について三市で引き続き情報を収集する。
4. 食品ロス削減啓発の一環として市民参加型のイベントを 3 市共同で開催することを検討する。
 - ・ エコクッキングレシピを募集したコンテスト
 - ・ フードロスウィークとして食品ロス削減にテーマ絞ったイベント
 - ・ 子供を交えてできる取り組み

三市ごみ減量推進市民会議 減量グループ小委員会 打合せ資料

	生ごみ減量・分別収集・資源化	プラごみ減量・資源化	紙ごみ減量・資源化	その他
佐藤委員	食品ロスの削減			
小野寺委員	① 自家処理の啓発方法を検討 ② 市内全域の分別収集・資源化の青写真作成 ③ モデル地区での実証実験の立案	① 減量・分別徹底のための啓発方法の検討 ② 自販機脇回収ボックス設置徹底の働きかけ ③ ドラッグストアへのペットボトル回収ボックス設置の働きかけ	① 雑紙収集袋の無料配布の企画立案 ② 紙おむつ資源化実証実験の企画立案	
石垣委員	スーパーでの気になる消費行動を制限できないか？			
續木委員	生ごみ減量・資源化 ① 食品ロス削減 飲食店マッチングアプリ ② 可燃ごみ中の食品ロスの割合と処理費用の発信 ③ 食品ロス削減推進協力店認定の拡大（ファミレスのパネル注文方式など） 自家処理の拡大・普及 ① レンタル処理機の採用 ② 自家処理の生ごみ堆肥の活用を周知	① プラごみ分別の徹底（プラ、不燃 分類の考え方） ② 「汚れたプラ」とは？ ③ 街中給水施設の拡大 ④ ペットボトルのコンビニ回収の拡大 ⑤ 可燃ごみの内訳（品目）の公表 ⑥ 店舗回収の拡大 店舗を認定事業所に ⑦ 製品プラのリサイクル・再資源化 ⑧ 生分解性プラの紹介 ⑨ 一時使用の学校プラ教材の共用化	① 「汚れていない紙」とは？ ② 紙おむつ資源化のコストは？ 生分解性素材で堆肥化、費用低減を紹介 ③ 「難再生紙」の回収・資源化の周知、回収拠点拡大	① バラ売り・量り売り」店舗の拡大（指定ごみ袋？ 国分寺3Lタイプ）
高松委員	前期提案書に出ている提案をどのように市民に理解してもらい、実際のごみ減量につなげるか。			
林委員	① 食品ロス 飲食店マッチングアプリ ② 自家処理の拡大普及 ③ 戸別分別収集	① 街中給水施設・コンビニペットボトル回収 ② 可燃ごみ減量キャンペーン ③ 店舗回収の拡大（店舗への支援） ④ 製品プラの再資源化	① 雑紙の分別排出 ② 紙おむつの資源化	

3市ごみ減量推進市民会議 ごみ減量グループメモ						
日 時	令和4年 10月 24日 (月)					
会 場	野川クリーンセンター会議室					
出席者	日野市		高松委員	○	小野寺委員	
	国分寺市	○	佐藤委員		石垣委員	
	小金井市	○	林委員	○	續木委員	
	行政委員	栗原課長 (国分寺市)、今井課長 (小金井市)				
	事務局	山口主任 (日野市)、府川係長 (小金井市) 永沢係長 (国分寺市)				
テーマ	決定事項等 (メモ)					
減量Gの話し合うテーマについて	<p>1 生ごみ減量・分別収集・資源化</p> <p>(1) 小金井市が実施した可燃ごみの組成分析結果 (パッカー車 1台から 100kg 抽出)</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年度燃やすごみ質測定分析結果として、全4回の未利用、未開封、食べ残しの割合は燃やすごみの4~5%程度。小金井市は、実施時期にもよるが他市より少ない印象がある。 「紙類」平均39.5%は、資源化可能な紙が含まれている。また、紙オムツもこの中の大きな割合を占めるものと思われる。 <p>(2) 国分寺市の生ごみ収集の取り組み状況と実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校2校、公民館3館、清掃センターで実施。(公民館2カ所は令和4年7月に追加) 6世帯以上で登録、共同回収ボックス設置、現在11カ所。回収後、たい肥化業者へ。 <p>(3) 生ごみ減量のための「消費行動マナー」ポスター</p> <ul style="list-style-type: none"> 国分寺市 リサイクル協力店11店舗に環境省参考にしたポスター設置。マルイ内にA2ポスター 日野市 食べきりポスター <p><u>「消費行動マナー」 三市共同のポスター作るか検討</u> 手前取り、果物・野菜やたらに触らない、食べ残さない、お持ち帰り等</p> <p><u>食品ロスの量、処理費用を含めて周知するポスター作るか検討</u></p> <p>(4) 「食品ロス削減推進協力店」の認定</p> <ul style="list-style-type: none"> 小金井市 10認定要件のうち2つ満たせば認定。認定には事業者を後押しする取り組みを作るインセンティブが必要。 ファミレス等のタッチパネルを使用して、小盛り等を選べるようにした食べ残しを減らす取り組みを行う事業所も認定したらどうか。 					

- ・ 店舗を指定せず、広くポスターを貼ってもらうのはどうか？行政の取組みは「後押し」が多い印象だが、「引っ張る」取組みも必要と考える。例えば、「食べ残しゼロ・お持ち帰りお薦め」POP を配布するのも良いかと思う。

(5) 食品ロス削減マッチングシステムの実証実験（小金井カメすけ）

- ・ 10月から開始。現在、登録3店舗、消費者がサイト上で予約後、店頭で直接購入。他自治体での成立事例としては、果物、パンなどの傷もの及び賞味期限近いもの

2 プラスチックごみの減量・資源化

(1) ドラッグストアへのペットボトル店頭回収の働きかけ。

- ・ 国分寺市 → 以前、サンドラッグにアプローチしたが国分寺市だけではと断られた経過がある。
- ・ 日野市 → 協議会に参加しているスーパー、コンビニのみ。ドラッグストアはアプローチ未。
- ・ 小金井市 → セブンイレブンにて回収機設置後回収予定。ドラッグストアはアプローチ未。

3市にてドラッグストア等、未アプローチ店舗への店頭回収の働きかけを検討する。

(2) 日野市のごみカレンダーの中のプラ分類ガイド（フローチャート）

- ・ 分かりやすいので他市にも啓発の参考となる。

(3) 市施設へのウォーターサーバーの配備

- ・ 日野市 30か所（設備の関係で排水不可）
- ・ 小金井市 13か所（設置場所の管理体制、設備の関係で排水不可）
- ・ 国分寺市 検討中

3 紙ごみの減量・資源化について

- ・ 将来的にも増加が予想される紙おむつの非焼却処理について、近隣市の現状を報告
- ・ 30年後の焼却炉の運転停止を踏まえ、焼却ゼロを目指す3市市民会議としては何らかの紙おむつ処理の検討を開始する必要があると考える。
- ・ 処理施設を作るのは、三市共同でも難しい。
- ・ スーパーフェーズは、最終処理に水を使わないシステム。
- ・ 既存施設においても稼働上の課題がある模様。

将来の方向性を見定めるため、国・都の動向等について三市で引き続き情報を収集する。

4 食ロス削減啓発の一環として3市共同の市民参加型のイベントについて

- エコクッキングレシピを募集したコンテスト
- フードロスウィークとして食品ロス削減にテーマ絞ったイベント
- 子供を交えてできる取り組み

上記の内容でのイベントを事業者の協力を得て三市共同で開催する。

今後、3市で具体化に向けて検討を進める。

次回は、11月24日（木）に第2回3市ごみ減量推進市民会議を開催する。よって、その後日程調整を行うこととする。次回内容は、主に下線で示している項目について、3市からの意見を確認する。